

9
タビタ
聖徒伝 93

「神の義に しがみつけ」

サムエル記二2～3章 イスラエルとの戦い アブネルの死

アウトライン

0. イントロダクション

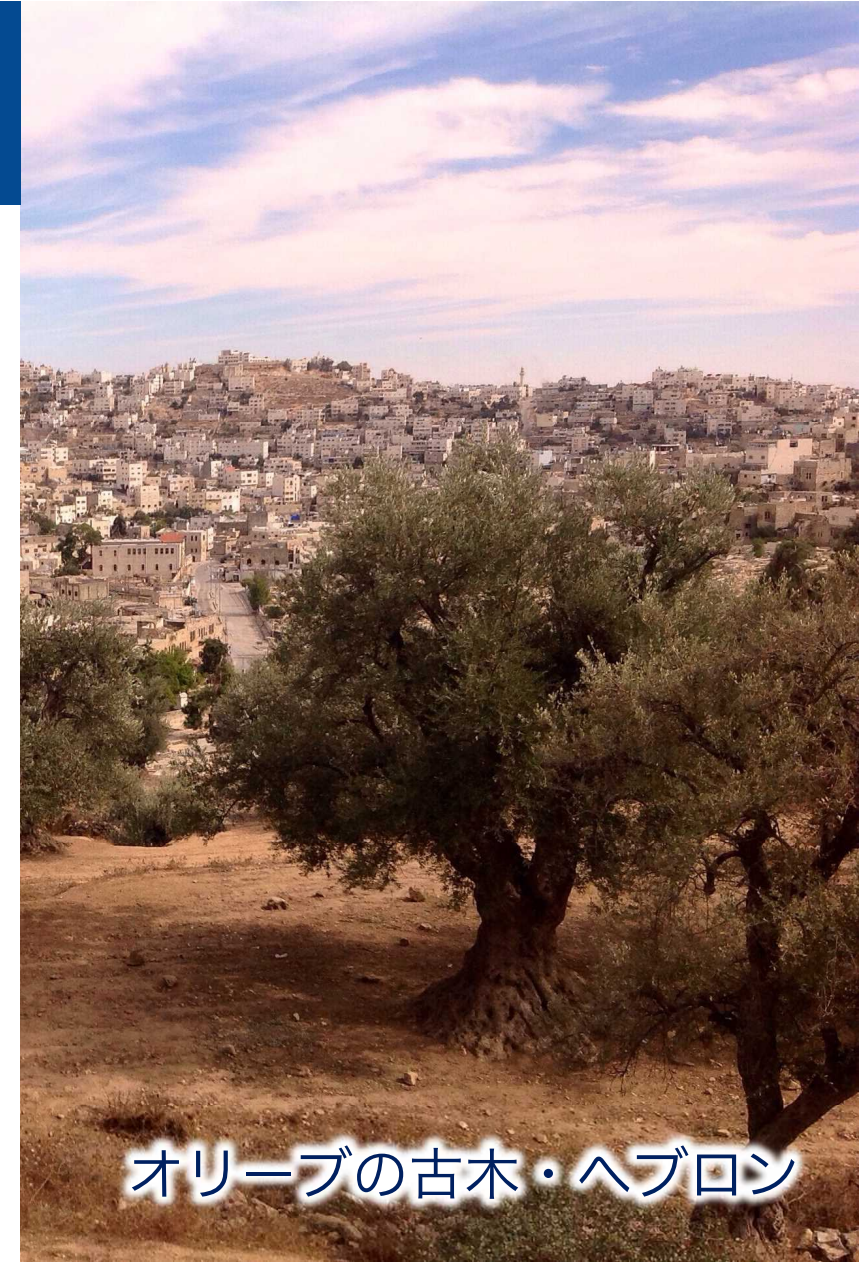
I. ユダの王となるダビデ 2:1~11

II. イスラエルとの戦い 2:12~32

III. 将軍アブネルの死 3:1~39

IV. まとめと適用

課題に今、取り組もう



オリーブの古木・ヘブロン



【無垢の時代】

天地創造

【良心の時代】

墮罪
~大洪水

【人類統治の時代】

バベルの塔事件

【約束の時代】

アブラハム
~ヤコブ

【律法の時代】

イスラエル
王国時代
メシア初臨

【恵みの時代】

聖霊降臨
世界宣教
メシア再臨

【御国の時代】

千年王国
大審判
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

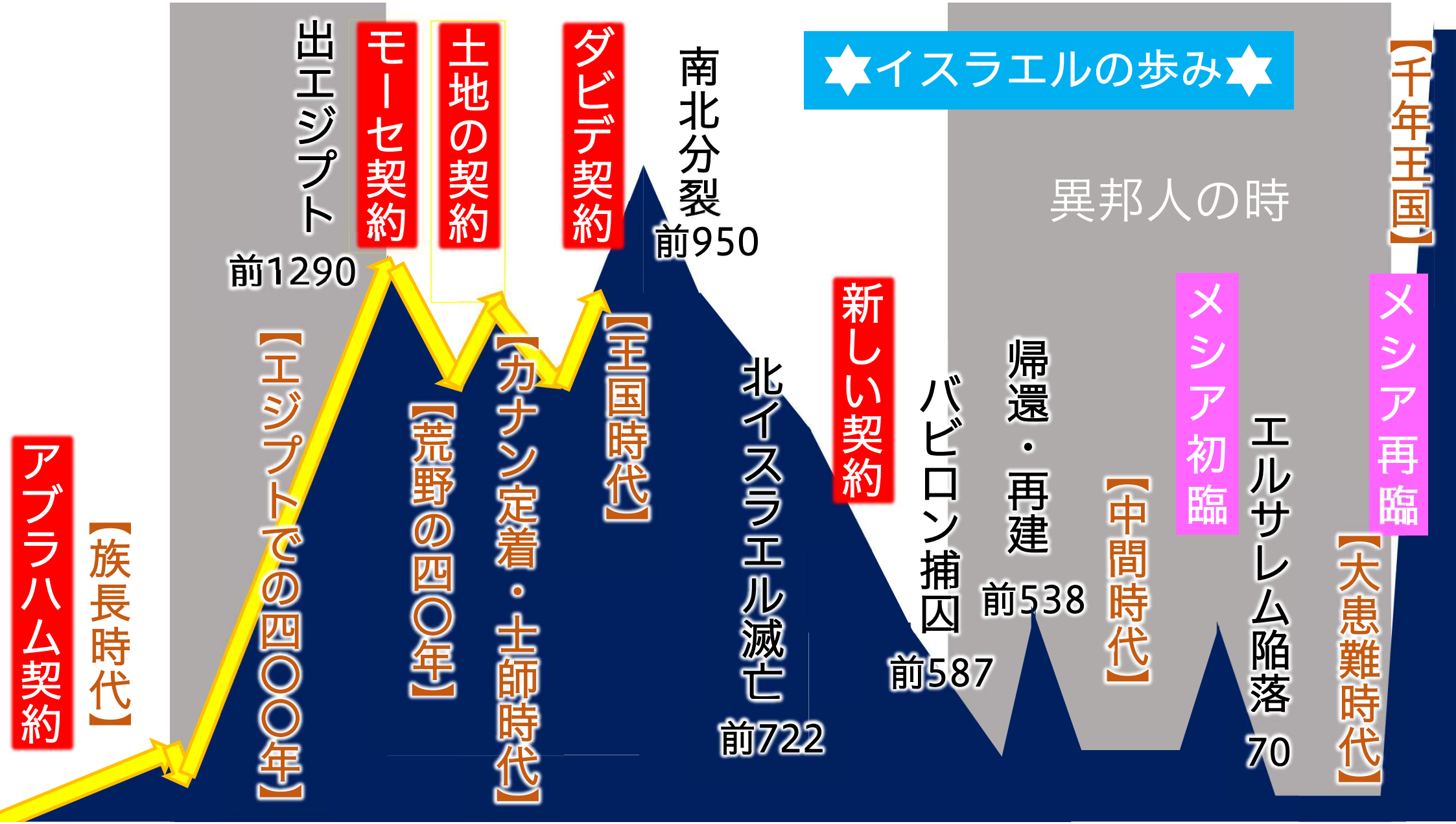
神の約束が、人類と世界の歴史を導く!!

過去

現在

未来

★イスラエルの歩み★



アブラハム契約

【族長時代】

出エジプト
前1290

モーセ契約

【エジプトでの四〇〇年】

土地の契約

【荒野の四〇年】

【カナン定着・士師時代】

ダビデ契約

【王国時代】

南北分裂
前950

北イスラエル滅亡
前722

新しい契約

バビロン捕囚
前587

【中間時代】

帰還・再建
前538

エルサレム陥落
70

メシア初臨

【大患難時代】

メシア再臨

【千年王国】

異邦人の時

サムエル記 第二

ダビデ王の治世の正と負

ユダの王	1 : 1~27	サウルとヨナタンの死
	2 : 1~4:12	ユダの王に即位
イスラエルの王	5:1~25	エルサレム遷都 全イスラエルの王に
	6:1~25	神の箱が都に上る
	7:1~29	ダビデ契約 の締結
	8:1~9:11	ダビデの治世 勢力の拡大・義と憐れみ
失墜する 王の権威	10:1~12:31	アンモンとの戦い ダビデの過ちと悔い改め
	13:1~14:33	悪化する家族問題
	15:1~18:32	アブサロムの謀反 ダビデの都落ち
	19:1~20:26	ダビデの帰還
追記	21:1~22	サウルの氏族の末路・戦士ダビデの引退
	22:1~51	ダビデの歌
	23:1~39	ダビデの遺言 勇士たちの記録
	24:1~25	人口調査 ダビデの罪と罰

【ダビデとサウルの足取り】 サムエル記一11～二1章

■ 初代の王サウルは主に背き、神はダビデに油を注いだ。

■ サウルに命を狙われたダビデの逃亡生活が始まった。

■ ダビデは、サウルを討つ機会を二度もあえて見逃した。
しかしサウルは変わらず、両者の道は交わらなかった。

■ サウルは、ペリシテとの戦いで凄惨な最後を遂げた。
ダビデは、哀歌を歌い、サウル王の死を悼んだ。



I. ユダの王となるダビデ

サムエルニ 2章1～11節



現在のヘブロンとオリーブの古木

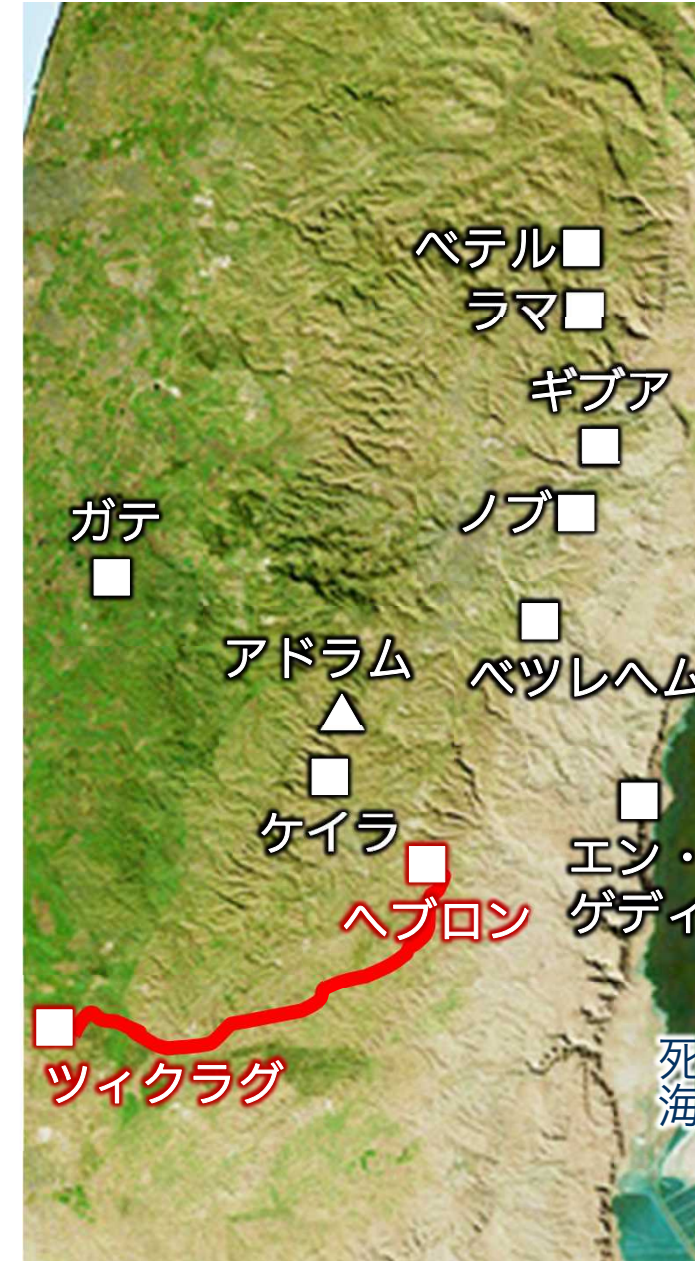
【ヘブロンへ】 Ⅱサムエル2:1

この後、ダビデは【主】に伺った。「ユダの町のどれか一つへ上って行くべきでしょうか。」

【主】は彼に「上って行け」と言われた。ダビデは、「どこに上ればよいでしょうか」と聞いた。主は「**ヘブロン***に」と言われた。

***ヘブロン** …ユダ相続地の中心都市。

- ➔ **アブラハム**が住み、祭壇を築き、マクペラの墓地を買い、葬られた地。
- ➔ **勇士カレブ**がアモリ人から攻め取った。



【ユダの王】 II サムエル2:2～4

ダビデは、二人の妻、イズレエル人アヒノアムと、カルメル人ナバルの妻であったアビガイルと一緒に、そこに上って行った。ダビデは、自分とともにいた人々を、その家族ごと連れて上った。彼らはヘブロン町々に住んだ。ユダの人々がやって来て、そこでダビデに油を注ぎ、ユダの家の王とした。

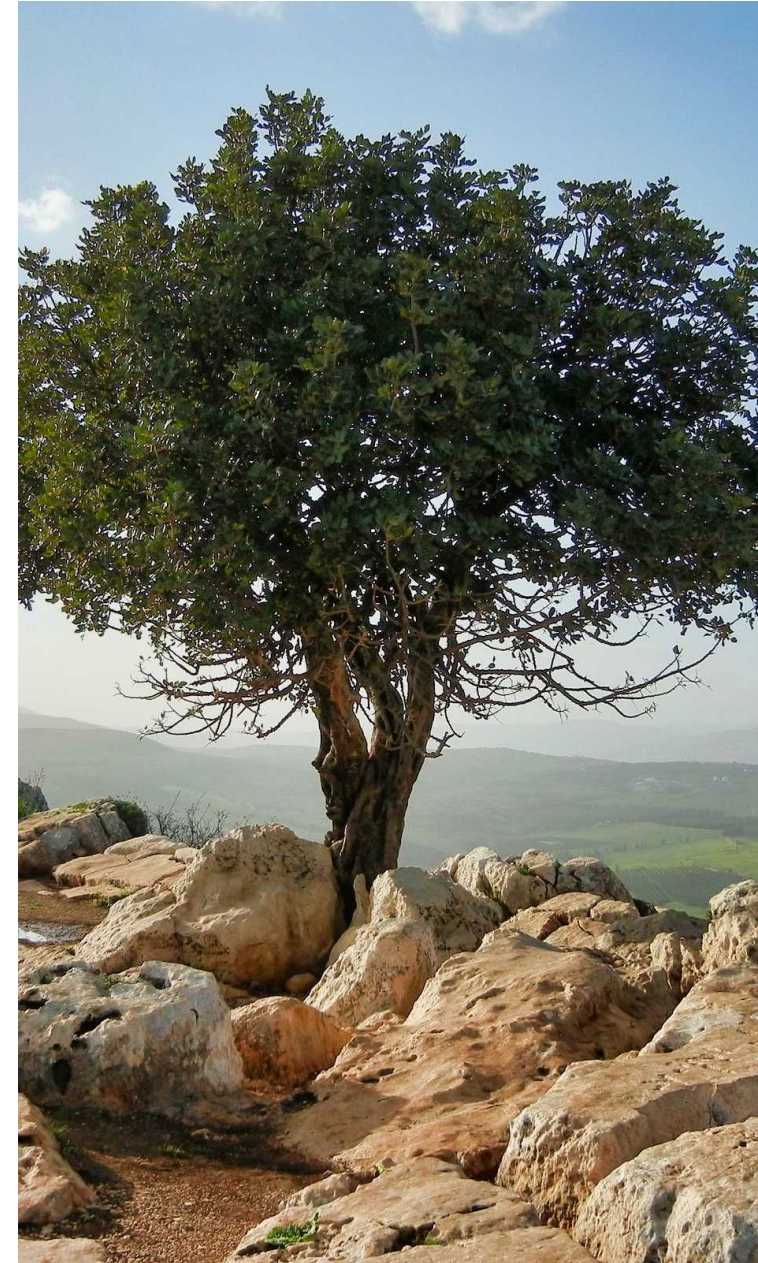
■ダビデは、ユダ族の王となった。



【ヤベシュ・ギルアデ】 II サムエル2:4～5

ヤベシュ・ギルアデ*の人々がサウルを葬ったことが、ダビデに知らされたとき、ダビデはヤベシュ・ギルアデの人々に使者たちを遣わし、彼らに言った。「あなたがたが【主】に祝福されるように。あなたがたは、あのような真実を尽くして主君サウルを葬った。」

- *サウル王が初陣で救った町。サウル王を輩出したベニヤミン族の女たちのルーツ。
- ➡彼らは、決死の行動で凌辱された王の遺体を取り返し、丁重に葬った。(Iサム31章)



【王としての励まし】 Ⅱ サムエル2:6～7

今、【主】があなたがたに恵みとまことを施してくださるように。あなたがたがそのようなことをしたので、この私もあなたがたに善をもって報いよう。

今、強くあれ。勇気ある者となれ。あなたがたの主君サウルは死んだが、ユダの家は私に油を注いで、自分たちの王としたからだ。」

- サウルに敬意を尽くした民に報いたダビデ。
- この行為も、ダビデこそイスラエルの王としての正統性を人々に知らしめただろう。



【サウルの王族の勢力】 II サムエル2:8～9章

一方、サウルの軍の長であったネルの子アブネルは、サウルの子イシュ・ボシェテを連れてマハナイン行き、彼をギルアデ、アッシュル人*、およびイズレエル、そしてエフライムとベニヤミン、すなわち全イスラエルの王とした。

*アッシュル人 …北方の民族の総称(創10:22)

アッシリアを指すことも(エズラ4:10)。

→ここでは、イスラエル北方に住んでいたイスラエルの部族を指すと思われる。



【イスラエルとユダ】 II サムエル2:10~11

サウルの子イシュ・ボシェテは、四十歳でイスラエルの王となり、二年間、王であった。しかし、ユダの家だけはダビデに従った。

ダビデがヘブロンでユダの家の王であった期間は、七年六か月であった。

■ イスラエル12部族の11部族は、サウル側。
ユダ族だけが、ダビデ側。

➡ イスラエルの分断が、7年半続いた。



II. イスラエルとの戦い サムエル記二 2章12～32節



【対峙する両軍】 II サムエル2:12～13

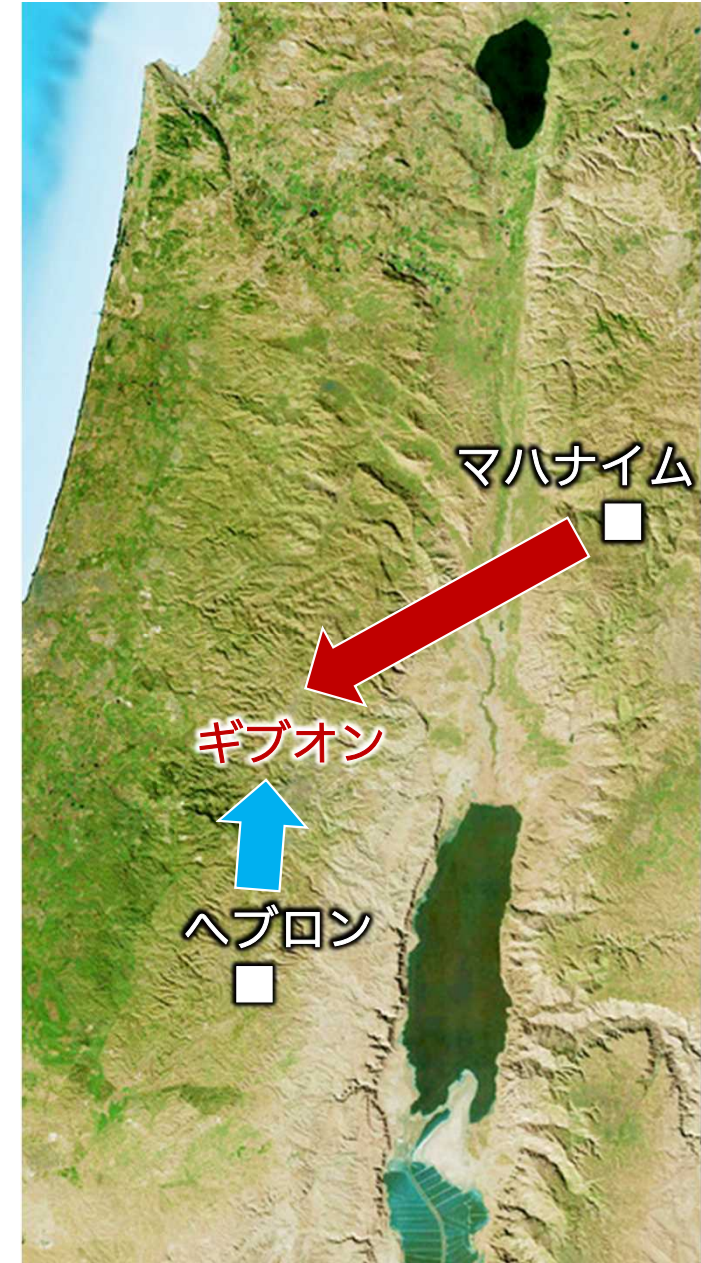
ネルの子**アブネル**は、サウルの子イシュ・ボシェテの家来たちと一緒にマハナインを出て、ギブオンへ向かった。

一方、ツエルヤの子**ヨアブ**も、ダビデの家来たちと一緒に出て行った。こうして彼らはギブオンの池のそばで出会った。一方は池の手前側に、もう一方は池の向こう側にとどまった。

■ どちらも王は出ていない。全面戦争ではない。

➔ 代表による闘技の実施を示し合わせていた?!

将軍と精鋭と兵士の数は絞られていただろう。



人物相関図

イシュ・ボシエテ軍

将軍アブネル

サウルのおじ

王イシュ・ボシエテ

親族

サウルの子

ダビデ軍

将軍ヨアブ

兄弟

兄弟

兄弟

アサエル

アビシャイ

【各代表12人の闘技】 II サムエル2:14～15

アブネルはヨアブに言った。「さあ、若い者たちを出し、われわれの前で闘技をさせよう。」ヨアブは言った。「よし、そうしよう。」

ベニヤミンの側、すなわちサウルの子イシュ・ボシェテの側から**十二人***、ダビデの家来たちから十二人が順番に出て行った。

***12は、イスラエルを示す象徴的な数字。**

➡どちらが正統なイスラエルか。代表者による闘技(決闘)の勝敗で示そうとしたのだろう。

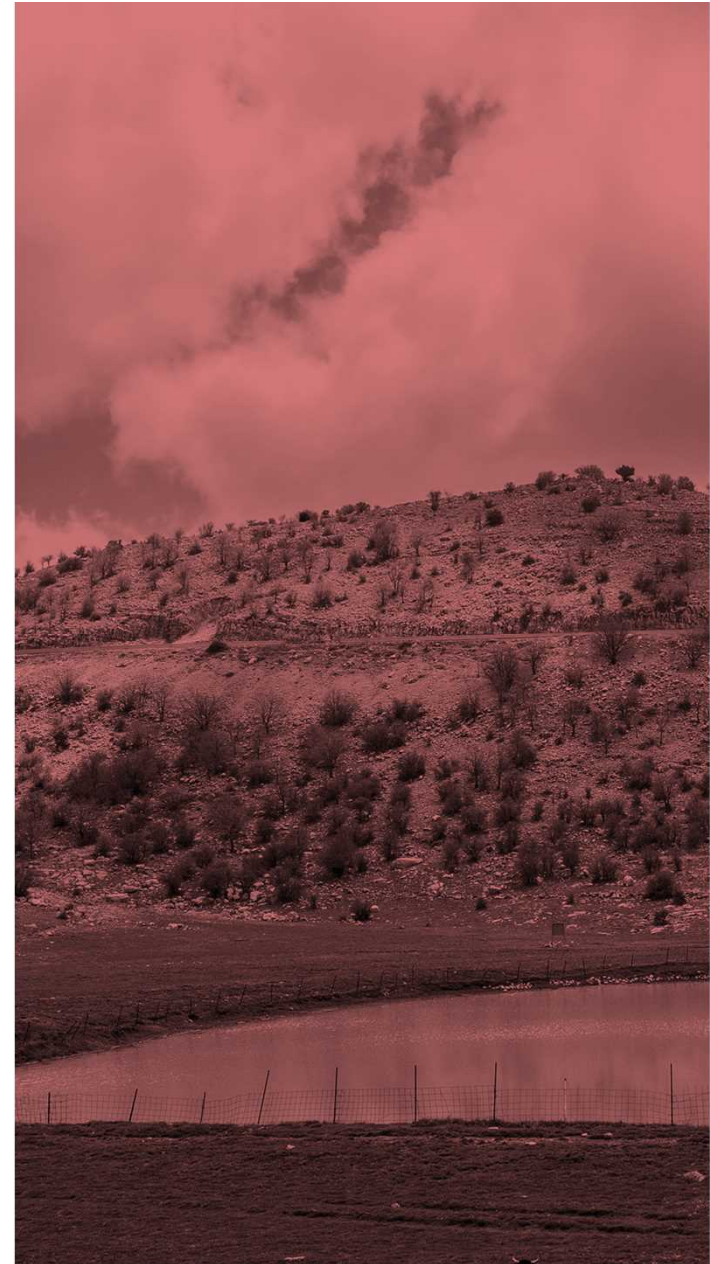


【戦いの火蓋】 II サムエル2:16～17

彼らは互いに相手の頭をつかみ、相手の脇腹に剣を刺し、一つになって倒れた。それで、その場所はヘルカテ・ハ・ツリム*と呼ばれた。それはギブオンにある。その日、戦いは激しさを極め、アブネルとイスラエルの兵士たちは、ダビデの家来たちに打ち負かされた。

*“刃の野”という意味。

■ 闘技で決着がつかず、両軍の戦いが勃発。



【アブネルとアサエル】 IIサムエル2:18～21

そこに、ツェルヤの三人の息子、**ヨアブ**、**アビシャイ**、**アサエル**がいた。**アサエル**は野のかもしかのように、足が速かった。

アサエルは**アブネル**の後を追った。右にも左にもそれずに、**アブネル**を追った。

アブネルは振り向いて言った。「おまえは**アサエル**か。」彼は答えた。「そうだ。」

アブネルは彼に言った。「右か左にそれ、若い者の一人を捕らえ、その者からはぎ取れ。」しかし**アサエル**は、**アブネル**を追うのをやめず、ほかへ行こうとしなかった。



【アサエルの死】 II サムエル2:22～23

アブネルはもう一度アサエルに言った。「私を追うのはやめ、ほかへ行け。なぜ、私がおまえを地に打ち倒さなければならぬのか*。どうやって、おまえの兄ヨアブに顔向けができるというのか。」

アサエルはなおも拒んで、ほかへ行こうとしなかった。それでアブネルは、槍の石突きで彼の下腹を突いた。槍はアサエルを突き抜けた。アサエルはその場に倒れて、そこで死んだ。アサエルが倒れて死んだ場所に来た者はみな、立ち止まった。

*兵士としての力量の差は明らかだった。

→アサエルを討ちたくはなかったアブネルだが…。



【アブネルの呼びかけ】 II サムエル2:24～26

しかしヨアブとアビシャイは、アブネルの後を追った。太陽が沈んだとき、彼ら二人はギブオンの荒野への道を通り、ギアハの反対側にあるアンマの丘までやって来た。

ベニヤミン人はアブネルに従って集まり、一団となって、一つの丘の頂に立った。

アブネルはヨアブに呼びかけて言った。「いつまでも剣が人を食い尽くしてよいものか。その果ては、ひどいことになるのを知らないのか。いつになったら、兵たちに、自分の兄弟たちを追うのをやめて帰れ、と命じるつもりか。」



【停戦】 II サムエル2:27～29

ヨアブは言った。「神は生きておられる。もし、おまえが言い出さなかったなら、確かに兵たちは、明日の朝まで、それぞれ自分の兄弟たちを追うのをやめなかっただろう。」

ヨアブは角笛を吹いた。それで兵たちはみな立ち止まり、それ以上イスラエルの後を追わず、戦いを続けることはなかった。

アブネルとその部下たちは、一晩中アラバを歩いて行った。そしてヨルダン川を渡り、午前中歩き続けてマハナムに着いた。



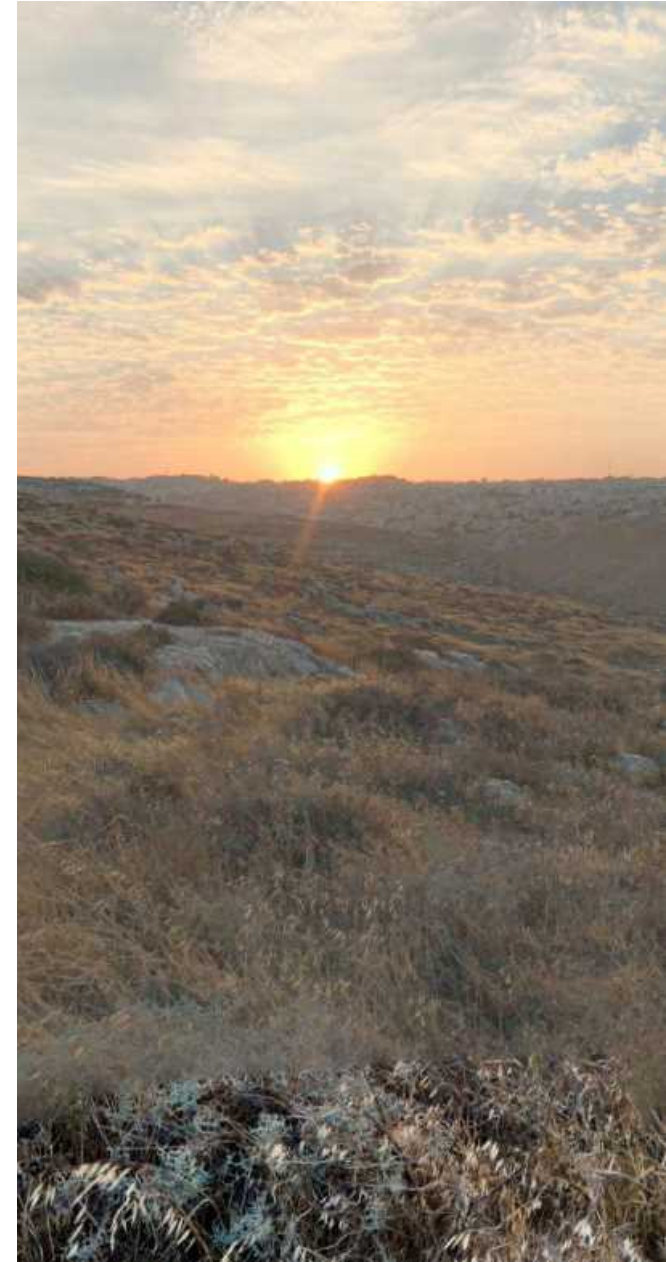
【アサエルの埋葬】 II サムエル2:30～32

一方、ヨアブはアブネルを追うのをやめて帰った。兵たちを全部集めてみると、ダビデの家来十九人とアサエルがいなかった。

ダビデの家来たちは、アブネルの部下であるベニヤミン人のうち三百六十人を討ち取っていた。彼らはアサエルを運んで、ベツレヘム*にある彼の父の墓に葬った。ヨアブとその部下たちは一晩中歩いて、夜明けごろヘブロンに着いた。

*ヨアブの兄弟は、ダビデと同郷!!

→うかがい知れる複雑な力関係や確執。



A wide landscape view of a dry, hilly region. The foreground is a dry, sandy field with sparse, low-lying vegetation. In the middle ground, there are several clusters of trees, some green and some bare. A white dog is standing in the middle ground, facing right. The background shows rolling hills under a clear blue sky.

III. アブネルの死

サムエル記二 3章

ヘブロン郊外

【ヘブロンでの繁栄】 Ⅱサムエル3:1

サウルの家とダビデの家の間には、長く戦いが続いた。ダビデはますます強くなり、サウルの家はますます弱くなった。

ダビデにはヘブロンで子が生まれた。長子はイズレエル人アヒノアムによる**アムノン**。

次男はカルメル人ナバルの妻であったアビガイルによるキルアブ。三男はゲシュルの王タルマイの娘マアカの子**アブサロム**。

四男はハギテの子アドニヤ。五男はアビタルの子シェファテヤ。

六男はダビデの妻エグラによるイテレアム。これらの子がヘブロンでダビデに生まれた。



ヘブロンで6人
子が生まれたのは
神の祝福のしるし

【サウル王の側女】 II サムエル3:6~7

サウルの家とダビデの家が戦っている間に、**アブネル**がサウルの家で勢力を増していた。

サウルには、アヤの娘で、名をリツパという側女がいた。**イシュ・ボシェテ**はアブネルに言った。「あなたはなぜ、**私の父の側女と通じたのか。***」

*王位継承では、**ハーレム**をも引き継いだ。

→側女と寝るのは、王への野心の現われとみなされる行為。



ヨルダン川東岸


【アブネルの激怒】 II サムエル3:8

アブネルはイシュ・ボシェテ*のことばを聞くと、激しく怒って言った。「この私がユダの犬のかしらだとでも言うのか。今日、私はあなたの父サウルの家と、その兄弟と友人たちに真実を尽くして*、あなたをダビデの手に渡さないでいる。それなのに今日、あなたは、あの女のこと私をとがめるのか。」

*“恥の人”を意味する呼称。

➡元の名は“イシュ・バアル” “バアルの火”

■王の資質に欠け、庇護にあるイシュ・ボシェテが、王として命令したことにアブネルは激怒した？



無能なくせに
という怒り?!

傲慢なのは
間違いない!!

人物相関図

イシュ・ボシエテ軍

将軍アブネル



サウルのおじ

王イシュ・ボシエテ



親族

サウルの子

どちらも
故サウル王の
肉親ではある

ダビデ軍

将軍ヨアブ



兄弟

兄弟



アサエル

兄弟



アビシャイ

【アブネルの決断】 II サムエル3:9

【主】がダビデに誓われたとおりのことを、もし私がダビデのために果たさなかったなら、神がこのアブネルを幾重にも罰せられるように。

それは、サウルの家から王位を移し、ダビデの王座を、ダンからベエル・シェバに至るイスラエルとユダの上に堅く立てるということだ。」

イシュ・ボシェテはアブネルを恐れていたもので、彼に、もはや一言も返すことができなかった。

■ 自分が王になるのではなく、**ダビデに移す**と!!

➔ イシュ・ボシェテに愛想が尽きていた？



主のダビデへの
油注ぎも知って
いたアブネル

【ダビデの条件】 II サムエル3:12~13

アブネルはダビデのところに使者を遣わして言った。「この国はだれのものでしょうか。私と契約を結んでください。ご覧ください。私は全イスラエルをあなたに移すのに協力します。」

ダビデは言った。「よろしい。あなたと契約を結ぼう。しかし、条件が一つある。それは、あなたが私に会いに来るときは、まずサウルの娘ミカル*を連れて来ること、そうでなければ私に会えないということだ。」

*サウルが約束を破り、一方的に結婚を反故に。



【パルティエルの涙】 Ⅱ サムエル3:14～16

ダビデはサウルの子イシュ・ボシェテに使者を遣わして言った。「私がペリシテ人の陽の皮百をもってめとった、私の妻ミカルを返していただきたい。」

イシュ・ボシェテは人を遣わして、彼女をその夫、ライシュの子パルティエルから取り返した。彼女の夫は泣きながら彼女の後を追ってバフリムまで来たが、アブネルが「行け。帰れ」と言ったので、彼は帰った。



【動くアブネル】 Ⅱ サムエル3:17~19

アブネルはイスラエルの長老たちと話してこう言った。「あなたがたは、かねてから、ダビデを自分たちの王とすることを願っていた。

今、それをしなさい。【主】がダビデについて、『わたしのしもべダビデの手によって、わたしはわたしの民イスラエルをペリシテ人の手、およびすべての敵の手から救う』と言われたからだ。」

アブネルはまた、ベニヤミン人とじかに話し合った。それから、アブネルはまた、ヘブロンにいるダビデのところへ行き、イスラエルとベニヤミンの家全体が良いと思っていることを、すべて彼の耳に入れた。



【アブネルの再訪】 II サムエル3:20

アブネルは二十人の部下とともにヘブロンのだビデのもとに来た。だビデはアブネルとその部下のために祝宴を張った。

アブネルはだビデに言った。「私は、全イスラエルをわが主、王のもとに集めに出かけます。彼らがあなたと契約を結び、あなたが、お望みどおりに王として治められるようにいたしましょう。」だビデはアブネルを送り出し、アブネルは安心して出て行った。

ちょうどそこへ、だビデの家来たちとヨアブが略奪から帰り、たくさんの分捕り物を持って来た。しかし、アブネルはヘブロンのだビデのもとにはいなかった。だビデがアブネルを送り出し、もう安心して出て行っていったからである。

契約の食事



【ヨアブの抗議】 II サムエル3:23～25

ヨアブと、彼とともにいた軍勢がみな帰って来たとき、「ネルの子アブネルが王のところに来たが、王がアブネルを送り出したので、彼は安心して出て行った」とヨアブに知らせる者があった。

ヨアブは王のところに来て言った。「何ということなされたのですか。ご覧ください。アブネルがあなたのところに来たのです。なぜ、彼を送り出して、出て行くままにされたのですか。」

あなたはネルの子アブネルのことをご存じのはずです。彼はあなたを惑わし、あなたの動静を探り、あなたのなさることを残らず知るために来たのです。」



【暗殺】 II サムエル3:26～27

ヨアブはダビデのもとを出てから使者を遣わし、アブネルの後を追わせ、彼をシラの井戸から連れ戻させた。しかし、ダビデはそのことを知らなかった。

アブネルは**ヘブロン***に戻った。ヨアブは彼とひそかに話そうと、彼を門の内側に連れ込み、そこで彼の下腹を刺した。こうして、アブネルは、彼がヨアブの弟アサエルの血を流したことのゆえに死んだ。

* 「逃れの町」ヘブロンで殺されたアブネル。



【ヨアブへの呪い】 II サムエル3:28～30

後になって、ダビデはそのことを聞いて言った。「ネルの子アブネルの血については、私も私の王国も、【主】の前にとこしえまで潔白である。

その血は、ヨアブの頭と彼の父の家の全員に降りかかるように。またヨアブの家には、漏出を病む者、皮膚をツアラアトに冒される者、糸巻きをつかむ者、剣で倒れる者、食に飢える者が絶えないように。」

ヨアブとその兄弟アビシャイがアブネルを殺したのは、アブネルが彼らの弟アサエルをギブオンでの戦いで殺したからであった。



【アブネルの弔い】 II サムエル3:31～32

ダビデは、ヨアブと彼とともにいたすべての兵に言った。「あなたがたの衣を引き裂き、粗布をまとい、アブネルの前で悼み悲しみなさい。」そして、ダビデ王は棺の後をついて行った。

彼らはアブネルを**ヘブロン***に葬った。王はアブネルの墓で声をあげて泣き、民もみな泣いた。

*イスラエルの父祖アブラハムも葬られた地。

このヘブロンでアブネルは葬られた。

➡イスラエル王国の最初の将に相応しい葬儀。



【アブネルへの哀歌】 II サムエル3:33～34

王はアブネルのために**哀歌を歌った***。「愚か者が死ぬように、アブネルは死ななければならなかったのか。あなたの手足は縛られず、かせにもつながれずに。不正な者の前に倒れるように、あなたは倒れてしまったのか。」民はみな、さらに続けて彼のために泣いた。

*“コーン”…一つの動詞。名詞は、“キーナー”

➔聖書で個人的に哀歌がささげられているのは、サウル王、将軍**アブネル**、ヨシヤ王だけ。



【ダビデの断食】 II サムエル3:35～37

民はみな、まだ日のあるうちにダビデに食事をとらせようとしてやって来たが、ダビデはこう誓った。

「もし私が、日の沈む前に、パンでもほかの何でも口にすることがあれば、神がこの私を幾重にも罰せられますように。」

民はみな、そのことを認めて、それで良いと思った。
王のしたことはすべて、民を満足させた。

民はみな、そして全イスラエルは、その日、ネルの子アブネルを殺したのは、王から出たことではないことを知った。



誠意を尽くした
ダビデに民は
信頼を寄せた。

【ダビデのつぶやき】 II サムエル3:38～39

王は自分の家来たちに言った。「今日、イスラエルで一人の偉大な軍の将が倒れたのを知らないのか。

この私は油注がれた王であるが、今日の私は無力だ。ツェルヤの子であるこれらの者たちは、私にとっては手ごわすぎる。* 【主】が、悪を行う者に、その悪にしたがって報いてくださるように。」

*力を持つヨアブに罰を下せなかったダビデ。

➡ヨアブの存在は後々まで悩みの種に!!



【詩篇5篇】 指揮者のために。フルートに合わせて。ダビデの賛歌。

5:1 私のことばに耳を傾けてください。

【主】 よ。私のうめきを聞き取ってください。

5:2 私の叫ぶ声を耳に留めてください。私の王 私の神
私はあなたに祈っています。

5:3 【主】 よ朝明けに私の声を聞いてください。

朝明けに 私はあなたの御前に備えをし仰ぎ望みます。

5:4 あなたは悪を喜ぶ神ではなく

わざわざはあなたとともに住まないからです。

5:5 誇り高ぶる者たちは御目の前に立つことはできません。

あなたは不法を行う者をすべて憎まれます。

5:6 あなたは偽りを言う者どもを滅ぼされます。

【主】は 人の血を流す者や欺く者を忌み嫌われます。

5:7 しかし 私はあなたの豊かな恵みによって

あなたの家に行き あなたを恐れつつ

あなたの聖なる宮に向かってひれ伏します。

5:8 【主】よ 私を待ち伏せている者がいますから

あなたの義によって私を導いてください。

私の前にあなたの道をまっすぐにしてください。

5:9 彼らの口には真実がなく心にあるのは破壊です。

彼らの喉は開いた墓。彼らはその舌でへつらうのです。

5:10 神よ彼らに責めを負わせてください。

彼らが自分のはかりごとで倒れますように。

その多くの背きのゆえに彼らを追い散らしてください。

あなたに逆らっているからです。

5:11 どうかあなたに身を避ける者が みな喜びとこしえまでも

喜び歌いますように。

あなたが彼らをかばってくださり

御名を愛する者たちがあなたを誇りますように。

5:12 【主】 よまことにあなたは正しい者を祝福し

大盾のようにいつくしみでおおってくださいます。



IV. まとめと適用 課題に今、取り組もう

ヘブロン近郊

人物相関図

イシュ・ボシエテ軍

ダビデ軍

サウルのおじ

将軍アブネル

将軍ヨアブ

王イシュ・ボシエテ

サウルの子



親族

殺害

殺害

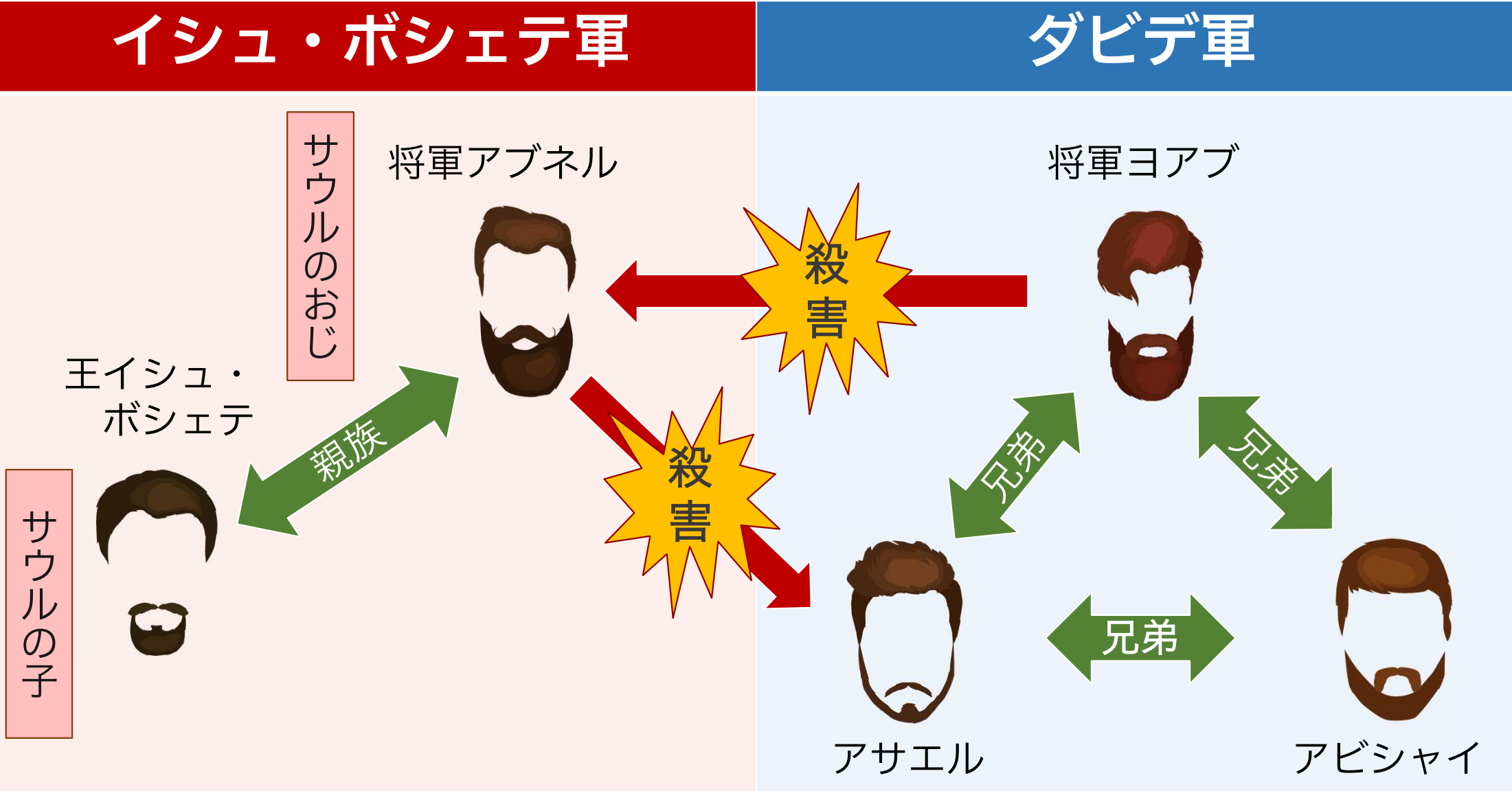
兄弟

兄弟

兄弟

アサエル

アビシャイ



【アサエルの死・アブネルの責任】

- 各々の力量を知っていた**アブネル**は、**アサエル**を生かそうとしたが、**アサエル**は執拗に**アブネル**を討とうと追いかけて続けた。
- 槍の石突で打ったのは、剣なら峰打ち。**致命傷を避けたアブネル**。しかし、足の速さが災いし、**アサエル**は死んだ。
- なお執拗に追跡を続けたヨアブとアビシャイ。
停戦を訴え、**凄惨な戦いを止めさせたのは、アブネル**だった。

アブネルによるアサエルの死は、戦禍の中での不慮の死

【アブネルの死・ヨアブの責任】

- アブネルは、**平和的**にダビデへ王権を移譲しようとしていた。
- ヨアブは、**猜疑心と復讐心から**、ヘブロンの中の門(行政府)で、平和の時に、無防備なアブネルを暗殺した。
- ヘブロンは、神の律法が定める**“逃れの町”**(民数記35章)
→ 過失致死を犯した者を復讐者の手から守るためのもの。

ヨアブによるアブネルの死は、律法破りの明確な殺人

【アブネルの面影をたどる】

- サムエルに油注がれた肝心なことを黙っていたサウルに、「サムエルは何を話したか」と尋ねたおじが、アブネル。(110:15)
→ **靈的感性を持った人物。**
- アブネルは、王となったおいに、将軍として仕え、誠実に支えた。ダビデも「イスラエルで並ぶものはない」と認めた**優れた武人。**
- アサエルを討つことをためらい、平和的にダビデへの王権移譲を進めようとした**平和の人**でもあった。
- ダビデは、サウル王に次いで、将軍アブネルのために**哀歌**を歌った。

【アブネルの罪】

■ アブネルは、**ダビデこそ、主が油注がれた王だと知っていたが、**
亡きサウルに義理立てして、イシュ・ボシェテを王に担ぎ上げた。

➔ **最初からダビデの王位を認めれば、ギブオンの戦いもなかった。**

■ サウルの側女と寝る**傲慢さ**。王イシュ・ボシェテへの**侮り**も。

➔ 人の思いで始めたことは、必ずどこかで歪んでいく。

■ 一方で、自分は決して王たりえないことも知っていただろう。
サウル王の苦悶を間近に見てきたゆえに。

【アブネルの罪から学ぼう】

- イスラエルの王に仕える将軍としての使命に立ち返った矢先の死。
- アブネルの最大の罪は、**主がダビデに油注がれたと知りながら**、サウルと共にダビデを追い回し、サウルの死後も、すぐダビデに従わなかったこと。
- **主の命令を知っていながら従わない**、その責任は重い。
聖書を学ぶほどに、応答の責任は増していくことを覚えよう。

【私に与えられた使命と責務を覚えよう】

- 分かっているながら、先延ばしにしている課題がないだろうか。信仰の応答として主に求められる、なすべき**具体的な行動**がある。
- 信仰生活の停滞をもたらしているのは、棚上げしたままの課題。主がすでに促されている、なすべき行動。つげるべき言葉がある。分かっているながら、避け続けてきた、その**課題に今取り組もう**。
- いつまでも主の忍耐の時が続くと思ってはならない。主の日は、これまでになく間近に迫っているのだから。

気づかされた、その瞬間こそが、取り組むべき時だと知ろう

- 「天のお父さま。わたしは、み子イエス・キリストが、
- ①わたしの罪(つみ)を贖(あがなう)うために十字架で死に、
 - ②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、
 - ③三日目に復活(ふっかつ)したことを信じます。

聖書(せいしょ)の学(まな)びを 通(とお)して与(あた)えられる、
主(しゅ)の知恵(ちえ)と力に 感謝(かんしゃ)します。

なすべき課題(かだい)は、わたしの前に明(あき)らかです。

どうか今、与(あた)えられた恵(めぐ)みに、行動(こうどう)をもって
応答(おうとう)する者としてください。証(あか)し人(びと)として、
ここから世(よ)に 遣(つか)わしてください。

主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」